

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学政治学研究科 3年

参加プログラム: ELI English for Law 派遣先大学: Yale

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

Yale 大学は言わずと知れたアイビーリーグの一角をなす由緒正しい名門私立大学であり、米国最難関・最高峰のロースクールでも知られる大学です。2016年に大統領選挙があるので、来年はヒラリー・クリントン候補の出身校として注目を浴びているかもしれません。

参加した動機

英語力の強化、ロースクールの施設を利用したリサーチのため

参加の準備

①プログラムの参加手続き

ウェブサイトに必要な最低限の情報は(見つけにくいもの)あります。また東大がパートナーシップ大学のため留学前に2回当局のスタッフとのグループチャットで質問ができました。何かにつけ早めの手続きを心掛けたので授業料・寮費の支払いも、渡航1か月前の5月中にはメールでインストラクションを受け取り送金を終わりました。

このようにスムーズに手続きが進んだのは幸運でした。ある参加者はメールがこず実際に行くまできちんと支払いが受理されているのかわからず不安だったと言っていました。なお到着後の最初の手続の場所は出発前夜にメールがきたものの、それ以外のアクティビティや時間割の詳細は現地に行って初めて伝えられます。

②ビザの手続き

種類はF1ビザでした。I-20受領後(4月中旬)すぐウェブの申請フォームを埋めてかつ大使館の面接予約をしたので4月中には全ての手続きを終了しました。早めに行動したため面接は非常に空いていて20分かかりませんでした。

③医療関係の準備

歯科検診は済ませておきました。

④保険関係の準備

東京大学側で東京海上日動、Yale大学側でHTH Worldwide Insurance Servicesへの加入を義務付けられましたのでそれに従いました。東大は渡航数週間前、Yaleは渡航数日前に手続案内がきました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど

先生に事前に連絡・相談しました。

⑥語学関係の準備

特にしていません。ただしゼミで英語文献はよく読んでいました。

⑦日本から持参の方がよいもの

田中英夫編「BASIC 英米法辞典」中古であれば千円しませんが購入し持っていくことを強く勧めます。授業で扱った憲法対訳・年表・訴訟手続までも載っており重宝します。また参加者同士の連絡は WhatsApp がメジャーでした(LINEを使うのは日本人だけ)。アクティベートに電話回線が必要なので国内で設定しておくことをお勧めします。

学習・研究について

①プログラムの概要

簡単なライティングやプレゼン準備といった宿題が課されるほか、場合によっては指定文献・判例に目を通してくるように指示されます。以下にプログラムの概要を記します。

[事務手続]

6/27 到着・寮の鍵を貰う

6/28 学生証・時間割を貰う、夕方にガイダンス

7 月初週 OISS(留学生担当部署)で登録

8/6 修了証受け取り

8/7 18 時までに寮の鍵を返却・出発 (登録すれば 8/7 の夜も宿泊可、ただ案内が来るのが遅すぎ)

[Law Seminar 9:00-12:00 月～金 John P. Sahl]

講義

6/29 イントロダクション・自己紹介

6/30・7/1・3 法曹制度概観(法曹養成制度・ABA モデル職務規程)

7/6・8・9 裁判所制度(裁判手続・審級・管轄・連邦裁判所と州裁判所)

7/15・20・21 証拠法(FER・模擬証人尋問)

7/22・23 憲法(統治機構・権利章典 なお 7/30 に修正 14 条を補足)

7/29・30 不法行為(製造物責任)

7/31・8/3・4・5 模擬弁論(2 人対 2 人で近時の有名判例の弁論をクラスの前で披露(刑事判例が多め))

8/6 不法行為(製造物責任)の補足
期末試験(筆記・90 分・憲法修正第 1 条(表現規制)に関する事例問題でした)

8/7 期末試験の解説(1 時間ほど)・その後はカフェに移ってフェアウェル(この日は任意参加)

ゲストスピーカー・訪問

7/2 Tomas Ullman 刑事弁護

7/7 Kevin Doill 刑事訴追(検察)

7/10 Russell Versteeg 商標法と憲法問題

7/13・14 Alexander Meiklejohn 契約法

7/16 刑事施設訪問

7/23 Attorney's Office District of CT 訪問

7/27 Mark Soboslai ADR・家族法

7/28 Kathy Hermes 労働法(Workplace bullying)

8/3 Guido Calabresi (裁判官・元イエール学長)

8/4 参加者のうち実務家が自国の法実務を紹介

7/17・24 Free Friday

何回か延長授業をするかわりに 2 回三連休を作ってくれます

[Oral Communication 14:00-15:30 月水]

6/29・7/1 他の学生にインタビューしそれを発表

7/6・8 3 人チームで各自の法制度を比較しプレゼン

7/13 刑事弁護を見る

7/15 記事を用いてグループディスカッション

7/20・22・27・29 法律関係の任意のトピックで個人プレゼン(10 分程+質疑応答)とフィードバック

8/3・5 模擬弁論(6 人対 6 人で 2 ラウンド)

[Written Communication 15:45-17:15 火木]

6/30 narrative essay

7/2 summary making

7/7 Case Brief

7/9 persuasive essay

7/14 contract review

(7/16 刑事施設訪問のため休講)

7/21 business letters

7/23 irac(barexam における伝統的論証フォーマット)

7/28 Judge Jhon Walker +Federal District Court

(Richard C. Lee United States Courthouse)訪問

7/30 Note Taking(ゲストの話をレポートにして提出)

	8/4・6 記事を読んでディスカッション
[Laws, Moral and Professional Responsibility 18:30-20:40(実際は延長多) 火 John P. Sahl] 課題図書"The Lost Lawyer"を用いて 1 時間ほど議論 したあとに、法律家を主題とした映画を見ます。 6/30 "To Kill a Mockingbird" 7/7 "A civil Action" 7/14 "Erin Brockovich"	7/21 "Indictment: The McMartin Trial" (7/28 Federal District Court 訪問のため休講) 8/4 "My Cousin Vinny" 8/6 朝 ファイナルペーパーの提出(関連するトピックを 考えてダブルスペース、6-8 ページで書く)

②学習・研究面でのアドバイス

しばしば英文をたくさん読む必要に迫られます。その際に上手く「手を抜く」テクニックを学ぶのも一つの経験でした。例えばケースブリーフのウェブサイトを利用する、友人と協力して分担する、一部は割り切って飛ばすなど。

③語学面での苦勞・アドバイス等

当然ながら語学力は高い程よいです。普段の授業の理解度に係るほか、平日だけで課題が済めば、金曜日の夜は他の参加者と飲んで、土日は旅行に行けます。なお南欧・ラテンアメリカ・中国からの参加者が多く、多少でもスペイン語(ポルトガル語)か中国語ができるとより楽しめます。(南欧 7・ラテンアメリカ 18・アジア 12 くらい的人数です。)

生活について

①宿泊先

出願と同時に寮も申し込んで、そこに宿泊していました。今回寮を選んだ生徒の大半は 12 ある寮うちの Calhoun College に振り分けられました。基本的に一部屋を二人で使いベッド(シーツは現地購入)・机・タンスが備え付けてあります。シャワー・トイレは 3-4 人で共有です。ランドリー(洗濯機と乾燥機)は要クレジットカード(一回 5 ドル程)。寮には小さいながら図書室と PC ルーム、談話室があるほか、地下には卓球台・ビリヤード台・大型テレビ(カラオケ機能付き)・学生運営のカフェのある Buttery というスペースがあります。中庭のベンチで勉強する人も居ました。

②生活環境

・気候

最高気温は 33 度程度で日本より多少涼しいです。ただし寮の個室スペースには空調がないので風通しの悪い部屋だと暑く感じるかもしれません。USB 電源で動く小型ファンが活躍しました。その他の施設は概して室内空調が強めで、室内外の温度差になれる必要があります。雨は少なかったですが、たまに夕立が来ます。日照時間が長く朝 6 時半には日が昇り、20 時半まで日は沈みません。

・大学周辺の様子

ニューヨークやボストンと比べるとニューヘーヴンは Yale 以外何もありません。ただ Yale 自体が大きな博物館・美術館・図書館を持っており退屈はしません。強いて観光スポットをあげるなら、徒歩 40-50 分(バスもあります)くらいのところに East Rock という高台があります。独立記念日の花火を見に行きました。買い物はキャンパスに隣接する Yale Bookstore(購買部・書籍部)で日用品も含めて何でも揃います。シーツもここで買いました。

・食事

morse college の食堂で食べます。朝 7:30-10:00 昼 11:30-13:30 晩 17:00-19:30 に利用できます。カフェテリア形式です。ちなみに食堂からベーグルやリンゴの持出しが黙認されていたので、部屋に持ち帰っておいて小腹が空いた時に食べていました。またドリンクサーバーを使って水筒を満たすのも黙認されていたので、飲料を買いにいく手間が省けて便利でした。外食はパーティとか飲み会の機会に限られていました。

・交通機関

空港-Yale 間は Go prime time shuttle というサイトで事前に予約しておくほぼドアツードアで運んでもらえます。JFK から電車を乗り継いで行くより割高ですが、簡便です。

Yale についてからは、教室・寮・図書館・食堂はコンパクトにまとまっていますので基本は徒歩での移動です。ガイダンスで深夜に Yale 近郊を移動する場合に、任意の地点に運んでもらえる送迎バスの電話番号を教えてください。学外にアパートを借りている人の家でホームパーティする時に便利でした。

このほかボストン行きのバス(約 3 時間、Megabus.com が便利、片道 25-30 ドル)やニューヨーク行きの電車(約 2 時間、Metronorth が便利、片道 16 ドル)は最寄駅の Union Station から発着します。駅-キャンパスの移動は徒歩でもいけますが、Yale が運用している無料巡回シャトルが便利で安全です(夜 11 時半でも使えました)。このほか最近話題の配車アプリ Uber も使えました。タクシーは使いませんでした。

・お金の管理方法

クレジットカードを利用しました。食費を事前に払っていたので、あまりキャッシュはいりませんでした。ちなみに時折ランドリーの機械が友達のクレジットカードを読み取れなくなる時があったので、その分を立て替えたりしました。

③危機管理関係

ニューヘブンの治安は悪いとされますが、事前に犯罪発生地域を調べておくなどしたため、キャンパス周辺で身の危険を感じることはありませんでした。(とはいえ他の参加者がスタバで PC とパスポートの入ったバックを置き引きされました。ほかにも寮の鍵のかけ忘れによる盗難がありメールで警告が流れてきました。)キャンパスを離れる場合は、大学の送迎サービスを利用したりグループで行動したりするようにしていました。日没後の不用意な外出は控えましたが、そもそも初夏の北アメリカは日が長いので不自由さは感じませんでした。

医療機関は利用していないのでわかりません。

④要した費用とその内訳

・航空賃、交通費 : 航空券が 17.5 万円、空港-Yale はシャトルバスを利用して往復\$110

・授業料、費用(手続費、SEVIS 費用、Yale 指定海外保険)、寮費、食費 : \$9,245(一括で Yale に支払い)

・その他の必要経費: 東大指定の海外保険+安否確認サービス 1.9 万円(加入義務)、ビザ申請面接費用 2 万円

・教科書代(現地で指示を受け購入)

Anthony Kronman "The Lost Lawyer : Failing Ideals of the Legal Profession " (1995) \$33

書籍部では USED が無かったので新品を購入。結果論ですが、初週は使わなかったので、Amazon で中古(\$10 前後)を購入しても間に合った(受け取り用住所は在校生にきけば教えてください)。

判決や条文のコピー集 \$87 (TYCO という大学近辺の店で購入)

実は内容は全てオンラインで入手可能であり、紙媒体にこだわらないなら、収録判例・条文をクラスメイトに教えてもらえば購入不要です。

自作のライティング教材 \$20 程

プリンタ利用費として\$5(クレジットカードを使います)

・娯楽費用 : 旅行、外食、書籍類、現地購入した日用品に 4-5 万円使いました。

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

留学説明会で奨学金の説明があり、東大より 16 万円、FUTI より 4000 ドルの援助をいただきました。

大変助かりました。ありがとうございました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

実際にプログラムが始まるとイベント情報がメールや掲示板を通じて入手できます。観光イベントとスポーツイベントが中心ですが、カラオケナイトとかムービーマニアとかの娯楽イベントもありました。週末旅行はボストン、NYC、DC、ペンシルバニア、Six Flag(遊園地)などがメジャーでした。LLM 留学を見据えたロースクール見学の機会にもなり、平日であればビジターパスを得て施設内を訪問し、アドミッションオフィスで話を聞くこともできます(各大学のウェブページを参照)。各大学のアドミッション担当に直接メールしてアポを取った人もいました。ただしロースクールは8、9月から開始し5月に終わるので授業参観は難しいでしょう。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学サポートは何かと都合がつかず利用しませんでした。学習面では先生が昼食を共にして下さるので質問をたくさん投げることができました。生活面のサポートでは在校生がカウンセラーとしてなんでも教えてくれます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館:ロースクール図書館の書籍の充実度は素晴らしいのですが、夏季休暇なので開館時間が短い(平日で8:30-18:00、日曜は閉館)のが難点です。一番大きな総合図書館も同様です。地下にあるバス図書館は平日21:45まで空いていましたが、やはり日曜は閉館。貸し出しはできませんが、ブックスキャナが使い放題なので資料集めはしやすいです。

寮:前述の通り談話室や附属図書館はあるのですが意外と明るい照明・イス・テーブルという環境がありません。(柔らかい照明・ソファー・サイドテーブルという組合せが多い。)

スポーツジム:私は使いませんが、ルームメイトは褒めていました。

PC環境:寮のPCルームのほか、図書館にPCエリアがあり、自由に使えます。プリンタ利用は有料です。学内全域にわたって無線LANが配備されています。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今回の留学は英語で高度な議論を交わす能力を身につけるための「第一歩」になりました。このプログラムのみでその能力が身につく訳ではもちろんないのですが、今後の方針決定には大いに役立ちました。このほか留学当初意図していた訳ではありませんが、スペイン語訛りの英語には相当強くなった気がします。さらに南米(具体的にはエクアドルとコロンビア)という developing country 側の若手弁護士とのやり取りは、自分の興味分野の掘り下げにつながりました。

(2)参加後の予定

引き続き法学学習と語学力向上の訓練を続けてゆく予定です。

(3)今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

英米法入門なら日本語文献で十分です(弘文堂の英米法ベーシックスの各巻など)。また単なる語学強化ならもっと安上がりな方法があるでしょう。膨大な時間・金銭の投資に見合うものは何かを考えることが、留学の質を向上させるでしょう。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

大学のウェブサイトと過去の参加者報告は予定を立てるのに役立ちます。

「yale calhoun room」「yale morse college dining」などで画像を検索すると宿泊先の雰囲気を知ることが出来ます。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



教室



寮の食事の例

東京大学での所属学部/研究科・学年（プログラム開始時）：法学部・4年

参加プログラム：English Language Institute (ELI) Course: English for Law 派遣先大学：イェール大学卒

業・修了後の就職（希望）先： 1.研究職 ②専門職（医師・法曹・会計士等） 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業（業界： ） 6.起業 7.その他（ ）

派遣先大学の概要

イェール大学はアメリカのコネティカット州ニューヘイブンにある私立大学で、アメリカの名門校群アイビーリーグの一つである。1701年に設立されたアメリカで3番目に長い歴史があり、特にロースクールは全米最難関といわれている。

参加した動機

大学卒業後、アメリカのロースクールに留学したいと考えており、そのための準備として、アメリカでの学生生活がどのようなものであるかを知っておきたいと思った。また、本プログラムにおけるアメリカロースクールを想定した授業でその内容及び形式に触れるとともに、英語力を強化したいと考えた。さらに、自分にとっては未知の環境で、いろいろな国から来た様々な文化を持つ学生たちと交流することを通して、自分の視野を広げたいと思った。

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）必要な準備書類が数多くあるため、提出期日の締め切りに遅れないよう、なるべく早めに準備しておくのがよい。
- ②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）学生ビザである F1 ビザをアメリカ大使館に申請することになる。オンラインフォームは記入事項がたくさんあるが、途中までの記入内容を保存することができるため、少しずつ進めても構わない。要件を満たした顔写真のデータが必要であるため、写真館を利用した。面接の予約は混雑が予想されるため、少なくとも2、3週間は見ておいたほうがよい。面接当日の持ち物審査は厳格に行われるので、よく確認しておくこと。
- ③医療関係の準備（出発前の健康診断、予防接種等）日常的に服用している薬があれば、予め準備しておくのがよい。
- ④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）大学側が指定した付帯海学という海外留学用の保険に加入した。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）留学期間が試験期間とかぶっていたため、追試を受けるという形で教務係に許可をもらった。授業も途中までしか受けることができなかつたため、勉強方法等について教授に確認しておくのが望ましい。
- ⑥語学関係の準備（出発前の英語レベル・語学学習等）私の参加したプログラムは法律英語に特化したプログラムであったが、専門用語については現地で学べば足りる。会話についても使っているうちに慣れるため、特に心配する必要はないと思う。クラスによっては先生の話す速度がとても速く、内容も専門的で聞き取りづらいことがあつたため、リスニング能力が一定レベルに達していないと授業が面白く感じられないかもしれない。事前の英語勉強は、リスニングを中心に行うことを勧めたい。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど風邪薬や胃腸薬などを常備していると安心である。現地の物価が比較的高く、また物によっては使い慣れないものもあるため、全ての日常用品を現地で調達しようとするのではなく、ある程度日本から持って行くとよい。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）大学の寮に宿泊した。一人一部屋の人もいたが、私はルームメイト一人との相部屋だった。シャワーやトイレは同じ階の人たちと共用することになっていた。部屋には冷房がなく、かなり暑かったため、扇風機を購入する人もいた。安全確保のため、寮の入り口には二重の門があり、カードで開錠することになっていたほか、各階のドア、部屋のドア、化粧室のドアも全てオートロックで鍵が必要であった。カードと鍵を忘れたり、うっかり部屋に置いてしまったりすると、友人の助けが必要となり手間がかかるため、常に携帯することが求められる。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）日差しが強く、夕方遅くなっても外は明るい。気候は日本と同じく夏は高温多湿である。晴れの日が多く、突然雨が降ることがあってもすぐに止む。校舎がたいへん広く、地域全体が大学中心であるという印象を受けた。普段の移動はほとんど徒歩で済む。朝昼晩の食事は大学の食堂でとった。食堂の利用時間が決まっているため、規則正しい食生活を送ることができた点は良かったが、ビュッフェ形式とはいえ、脂っこい食事が多かったため、お皿に盛るときには注意が必要である。お金についてはクレジットカードのほか、現金をある程度持って行った。買い物をする際に、どういうわけかクレジットカードが機械に拒否されることが度々あり、その際には現金が役に立った。なお、寮の洗濯機はクレジットカードしか使うことができない。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）ニューヘイブンは治安が悪いことで有名で、日中は観光客で賑わっているが、夜に出歩くことはとても危険であるため、夜10時から明け方6時までの間は、電話一本で大学のシャトルバスを利用できるようになっている。室内は冷房が強く効いており、内外の気温差で風邪を引いてしまう学生が少なくないようだった。大学に医療センターがあり、何人かの友人が薬をもらいに行っていた。室内では分厚めの上着を身に付けておくのがよい。

④要した費用とその内訳（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）往復の航空賃が約16万円、授業料が約115万円、教科書代が約1万8000円であった。なお、家賃、食堂での食費は授業料に含めている。徒歩のため、交通費も普段はかからない。ただ、週末にニューヨークなどへ旅行に出かけた際には、列車代が往復約3500円、宿泊費が約7500円、食費が約6000円かかった。美術館や公園など、入館料が無料の観光地が多く存在するため、チェックしておくとうよい。娯楽費としては、友人との外食や買い物などで、約3万円。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

東大の留学関係のウェブサイトで、本プログラムと共に掲載されていた奨学金に応募した。支給額は16万円。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など）日常的にジムに通うようにしていた。イェール大学のジムは広くて設備が充実しており、寮からも近かったため通いやすかった。週末には友達とニューヨークに旅行に行った。

派遣先大学の環境について

- ①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）寮ごとに大学に所属する学生カウンセラーがいて、大学生生活で分からないことや困ったことがあった時に助けてくれた。夏季留学プログラム担当機関である **YSS** のスタッフから、大学内のイベントや旅行の情報、映画鑑賞やダンスレッスンなど、様々な課外活動に関するメールが届いた。
- ②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等）学部生向けの大きな図書館、法学部の図書室（なお、法学部の図書館は改装工事中）のほか、寮にあって何時でも利用できる図書館があり、通いやすかった。どの図書館にもコンセントがあり、パソコンを用いることが認められている。**Wi-Fi** は大学内どこにいても使うことができる。ジムは設備も利便性も大変良い。食堂も近くて利用しやすい。

プログラムを振り返って

- ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感大学卒業後にアメリカのロースクール進学を考えていた私にとって、アメリカロースクールの授業を先取りするような形式と内容の授業を受けたことは大いに刺激になった。また、本プログラム参加学生には弁護士やすでにアメリカロースクールの **LLM** に入学が決まっている者も数多くいて、彼らから話を聞くことは自分の進路を決定するうえで大変参考になった。英語面では、ずっと不安だった会話が友人と話す中で上達できて良かった。いろいろな国の学生たちと交流して多様な文化に触れた経験は、自分に新しい知見をもたらし、より多角的な視点を持って物事を捉えられるようになったと思う。
- ②参加後の予定大学卒業、アメリカのロースクール申請。
- ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス留学に行くことで国内ではできないような体験ができるので、機会があれば迷わずに挑戦してほしい。

その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

YSS (Yale Summer Session) のウェブサイト、東大教務係あるいは国際交流課から提供される資料等。

- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。